
**サンテックパワーージャパン株式会社が
台湾電力史上最大の4.7MWメガソーラー用
太陽光発電モジュールを受注**

サンテックパワーージャパン株式会社（本社 東京都新宿区 社長 山本豊）は、台湾電力が台湾高雄地区に新築予定の永安塩田に設置する太陽光発電モジュール4.7MWを受注しました。

台湾電力は台湾唯一の公営電力会社であり、本プロジェクトは台湾における太陽光発電設備では史上最大の規模となります。台湾電力は増大する台湾のエネルギー需要に対し、台湾域内の再生可能エネルギーとして太陽光発電の採用を前向きに捕らえており、サンテックパワーージャパン株式会社では年内にも更なる受注拡大を予定しています。

永安塩田太陽光発電設備は、台湾の華城電機株式会社（FORTUNE ELECTRIC CO., LTD. 本社 桃園県中壢工業区吉林路10号 総経理 許邦福）が工事を受注しており、華城電機株式会社とサンテックパワーージャパン株式会社の2社間で太陽光発電モジュールに関する販売契約がすでに締結されています。サンテックパワーージャパン株式会社が提供する太陽光発電モジュールは、産業用多結晶モジュールSTP280-24/Vd 16,640枚で、2010年6月から納品を開始します。本発電設備は2011年に稼動を予定しています。台湾では輸入化石燃料への依存を減らし二酸化炭素排出を2025年までに2000年レベルに引き下げる目標をかかげており、今後20年間で10GW以上の再生可能エネルギーの生産能力を得ることを目標とする中で、本プロジェクトは画期的なものとなります。

サンテックパワーージャパン株式会社は、大手家電販売店やハウスメーカーを中心に大きく展開している日本国内の住宅用太陽光発電システム販売に加えて、日本国内及び台湾など近隣地域に対する産業用発電モジュール・システム需要への対応を本格的に行い、販売を拡大します。

<本件のお問合せ先>

サンテックパワーージャパン株式会社

マーケティング本部 広報担当 三澤・北原 03-3342-3838

サンテックパワーージャパン ホームページ：<http://www.suntech-power.co.jp>

2010年3月17日

サンテックパワーージャパン株式会社

<サンテックパワー・ホールディングス、及びサンテックパワーージャパン株式会社について>

サンテックパワー社は2001年に中国無錫で設立され、2005年にニューヨーク証券取引所に株式を公開しました。2006年に日本市場の開拓とBIPV（建材一体型太陽電池）のノウハウを共有するために、太陽電池製造販売で長年の実績を持つ株式会社MSKを傘下に収め、2009年6月にサンテックパワーージャパン株式会社として発足させました。2007年度に太陽電池モジュールの生産量で世界第1位※1となり、2008年末には太陽電池セルとモジュールを合わせ1GWの生産能力を世界で始めて達成しました。市場規模の大きいヨーロッパ各国で高い評価を得ており、各国別導入占有率でドイツでは2位、スペインでは1位※2を獲得しています。

※ 1 PHOTON International 2008年3月号による

※ 2 サンテックパワー社調べによる

<台湾電力股份有限公司(台湾電力)について>

台湾電力は1919年に日本の統治下で設立され、1946年に中華民国政府が接收して以来公営企業として、台湾全土における発電・送電・配電・小売までの一貫した電力事業を行っています。台湾の電力需要は2008年に1,869億kWhに達し、近年10年の平均伸張率は約4.7%、IPPを含む発電設備は3,863万kW、内74%は火力発電であり、次いで原子力(13%)、水力(12%)による発電となっており、太陽光・風力などの新しい天然資源発電設備は今後強化すべき事業と捉えられています。

<華城電機股份有限公司（華城電機株式会社：FORTUNE ELECTRIC.CO., LTD.）について>

華城電機は1969年に台湾台北県土城郷で設立され、配電用変圧器の生産を開始しました。1980年に現在の中壠へ工場を移転して以来、アメリカMcGRAW-EDISON社、Allied Signal INC.、HONEYWELL社、GE社や日本の明電舎、日立製作所、オーストリアENCO社、ドイツABB社、フランスALSTOM社などと技術提携を行っています。台湾の重電機産業界で初めて、1993年にはISO9001、1998年にはISO14001認証を取得しました。1997年に株式を上場し、配電用変圧器、電力用変圧器、アモルファス変圧器、配電盤などの製造販売に加え、発電および受配電工程の統括事業を展開しています。